

5月27日に本校3年生99名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は国語・数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子ども達の状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

今年度は国語・数学が実施されました。2教科とも全国平均を下回る結果となりましたが、国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、数学では、「資料の活用」が、他の領域と比べて、正答率が高くなっています。



また、大きな特徴としては、無回答率が全国平均に比べて低く、あきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢が身についていることが挙げられます。

今後も引き続き、基礎、基本的な知識の定着をはかりながら、グループ学習などを通じて情報・資料をよく読み、自分の考え方や意見をまとめ、発表できる能力を付けていきたいと考えます。



国語科より



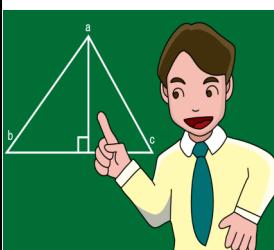
全体として全国平均正答率を8ポイントほど下回っているものの、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は6ポイント差に抑えられています。ただし、「書くこと」「読むこと」に関しては約10ポイント差で、学年としての課題が見られます。

解答方法別で見ると、語彙や部分的な内容の読み取りの問題で多い「選択式・短答式問題」は無解答率が1～5%程度なのに対して、全体の内容把握や自分の考えを書く「記述式問題」の無解答率が最大31%と高くなっています。

以上を踏まえて、現状としては「知識及び技能」の分野は小テストや意味調べ・実用的な内容を扱う言語活動などを通して、粘り強く取り組む姿勢が少しずつ身についているといえます。しかし漢字の書きや意味に関しての復習が必要な部分もあるため、授業内で積み重ねた学習を行い、改善したいと思います。

「思考力・判断力・表現力」の分野でも、「なぜそうなるのか」「なぜそう思うのか」を言語化することに課題があります。今後、「自分で問い合わせること」や「根拠のある意見をもつこと」を積極的に行える授業づくりをし、改善を図っていきます。

数学科より



全体として全国平均正答率を下回っています。領域ごとに見ると、「資料の活用」の領域では、正答率が高いです。一方で、「数と式」や「関数」を苦手としています。

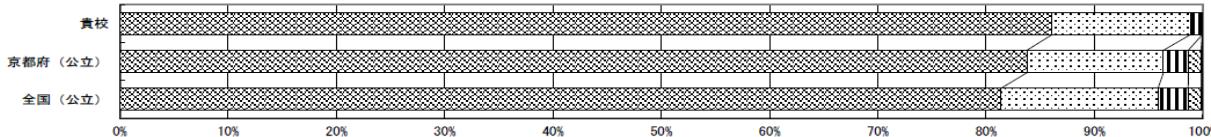
質問紙では、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」や「数学の問題の解き方が分からぬときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という問に対しても、肯定的な回答が多い一方、「数学が好き」や「数学の勉強は大切だと思いますか」という問に対しても、肯定的な回答が、全国平均を下回っています。このため、身に着けた学力を身近な問題とつなげられるように学習していきたいと思います。

また、学習した内容を応用・発展することを苦手とする傾向も見られ、基礎・基本を大切にしつつ、活用する力を育てたいと思います。

生徒質問紙調査から ①

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

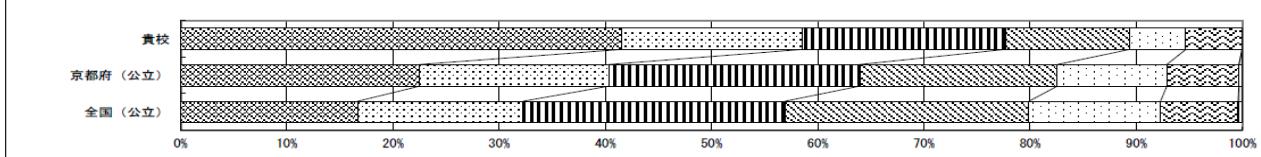


★ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の問い合わせに対して、肯定的な意見が全国平均を大きく上回っています。

生徒質問紙調査から ②

「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」

□1. 4時間以上 □2. 3時間以上、4時間より少ない □3. 2時間以上、3時間より少ない □4. 1時間以上、2時間より少ない
□5. 1時間より少ない □6. 全くしない ■その他 □無回答



★ 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」という問い合わせに対して、費やす時間が4時間以上の生徒が全国平均の約2.5倍と突出して多くなっています。「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という問い合わせに対して、全国平均を大きく上回っています。

全体を通して本校の成果と課題

本校では、基礎的・基本的な学力の大幅な向上と豊かな感性・情感・知恵を育むことを目標として、日々の授業を大切にすることを基本に、週末課題・確認テスト・朝読書・定期テスト前学習会・夏季休暇中學習会の実施、校下2小学校との学習状況の情報の共有や、交流などをすすめています。その結果、2教科とも全国平均は下回っているものの、国語では、「知識及び技能」の分野では、粘り強く取り組む姿勢が少しづつ身についてきているといえます。一方で、漢字の書きや意味に関する復習が必要な部分もあるため、授業内で積み重ねた学習を行い、改善したいと思います。数学では、資料の活用の領域では、正答率が高いです。一方で、数と式や関数を苦手としています。身に着けた学力を身近な問題とつなげられるようにし、基礎・基本を大切にしつつ、活用する力を育てたいと思います。

生徒質問調査では、人の心の痛みに気づけたり、人を助けたいという心が育まれてきていると感じます。一方で、携帯・スマホ・ゲームなどの使用時間が長いことなどが起因し、家庭学習の時間が短くなっていると考えられるので、今後引き続き、家庭とともに改善に向けて取り組みたい課題です。今年度も後半に入りましたが、上記で示した取組を生徒の中に意識づけられるように努めてまいりたいと思います。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学習確認プログラムの結果も含め、これまでの調査と比べて、学力は徐々に伸びてきており、生徒質問紙調査の結果も改善の方向にあり、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

